



知事と若者の地域創生ミーティング in 小国町

若者の豊かな発想や行動力を地域づくりに生かしていくため、吉村美栄子知事自らが県内市町村を訪ね、若者と対話する「知事と若者の地域創生ミーティングin小国町」が11月14日、おぐにふるさと文化館「百石」を会場に開催されました。

町内の10代から40代まで若者8人が参加し、「今後どのような町になるといい」といった希望や期待、町に対する思いなどについて意見を発表しました。今回は、その様子をご紹介します。



吉村知事からの

メッセージ

■開会のあいさつ

皆さんが小国町に住んで考えていることや、どのような町にしたいのかについて率直にお聴きしたいです。皆さんの考えていることに対し、一緒に考え、アドバイスをするため、若者ミーティングを開催しています。ぜひリラックスした気持ちで皆さんのお考えをお話しいただきたいと思っています。

すべての人が
住みやすい町へ



ふじたりん
藤田凜さん (小玉川)
小国高校3年生

高校の探究学習で小国町での在宅医療のあり方と言語聴覚士の需要について学んでいます。これから超高齢化社会になることが見込まれており、在宅医療の需要が高まると考えています。医療従事者の人手不足が叫ばれている中、言語聴覚士等のスペシャリストと連携することで患者さん一人ひとりに対し、理想とする支援ができるのではないかと考えています。

老若男女だれもが住みやすい町を作るためには職業の多様化という考え方が重要だと思っています。また、子どもたちが安全に遊べる場所や生

徒・学生の憩いの場といった環境を整備することで、子どもや若者といった将来を担う人たちが住みやすい町になると思います。

子どもの個性を伸ばす
環境を作りたい

将来、子どもに関わる職業に就きたいと考えており、子どもたちが個性を伸ばし、安心できる環境を作りたいと思っています。そのためには子どもたちが周囲と同じことができなくても、受け入れてもらえる環境が必要です。その第一歩として、私は子どもたちと接する際に、否定をしない、固定観念で決めつけない、相手の目線に立って考えることを心がけています。



さわだ あさひ
澤田 旭さん (西)
小国高校3年生 (白い森留学)

自分のまちに誇りを
感じられるように



いわいたくま
岩井拓磨さん (舟渡)
元地域おこし協力隊
任期終了後に町内企業に就職

自分のまちに誇りを感じてもらえるようになってほしいと考えています。町の将来や暮らしに不安を持っているという話を聞く機会がありまして、自分自身は町外から移住し、小国の暮らしに満足しています。町外から魅力を感じて移住する人がいる一方で、町内の人にとってはそれが当たり前で魅力と感じていないかたもいるようです。

町外から来た私がその魅力を発信していく必要があると考えていますが、なかなかそのような活動ができておらず、自分自身の課題だと感じています。

マルチワークによる
中小企業の支援

国の地方創生制度を活用し、移住者等を雇用して、町内の事業者派遣する「マルチワーク型人材派遣」をしています。農業など1年を通じて人を雇用することが難しい仕事と他の仕事を組み合わせることにより、担い手の確保と移住者の雇用の受け皿を作ってきました。

大都市よりも賃金水準が低く、水準を上げるため派遣先を増やしていくとともに、ただ人材を派遣するのではなく、派遣先の中小企業がより稼げるようマルチワーカーとともに協力していきたいと考えています。



よしだゆうと
吉田悠斗さん (樽口)
元地域おこし協力隊
おぐにマルチワーク事業協同
組合事務局長

農業を持続させたい



ふなやましょうへい
舟山祥平さん (若山)
若手農業者

5年前から農業を始め、つや姫や雪若丸等の米づくりを行っています。

町内では農家の高齢化がかなり進んでおり、再来年くらいには1人当たりの耕作面積が25ヘクタールになるという見込みがあります。今後、どうやって農業を持続させていくか、そのための対策を進めていかなくはならないと考えています。

また、子どもが2人いるのですが、外で遊びたいというときには近隣市町村の公園や施設に行っています。小国町にも子どもが遊べる施設があるといいなと思っています。

家族で田舎暮らしを楽しむ



さとうあかね
佐藤茜さん (新股)
家族で小国町に移住

小国町で暮らしたくて家族で移住しました。移住当初は町中心部に住んでいましたが、子どもを小規模校に通わせたいと思い、新股の空き家をお借りし、引っ越しました。東部地区では学校が地域をつなぐ大きな柱になっていきます。運動会や文化祭等の学校行事に地域のかたが参加してくれており、東京では体験できないことだと感じました。新股に引っ越してからは近所のかたにゼンマイもみを教えてもらったり、畑をやってみたりして自立して食べていくことの難しさと面白さを知りました。子たちにも農作業

のお手伝いや農業機械に乗せてもらうといった経験を積みながら、小国を好きになってほしいと思い、日々生活しています。

現在、小国の美味しいものを知ってもらうためECサイトで販売したり、小国町や田舎暮らしに興味を持ってくれた県外・国外の人が移住を樂しめるよう田舎ホームステイを行ったりしています。これからも、田舎暮らしの様子や小国のいいところをSNSで発信し、たくさんの人に伝えていきたいです。

地域を盛り上げたい

食と観光で全国に知れ渡る町になってほしいと考えています。小国町は山菜やきのこ、ジビエといった食文化や観光スポットとして有名な赤芝峡など豊かな観光資源に恵まれています。町の中にいるとなかなかその魅力に気づきま



たけうちけんた
竹内健太さん (幸町)
道の駅白い森おぐに駅長

せん。私自身、道の駅で働くようになってから、町外のお客様に町の魅力をたくさん教えてもらいました。町の魅力を若い世代のかたに知ってもらうため小国中学校、高校の授業で講演活動をしています。その成果もあり生徒の皆さんが町の魅力を発信してくれたら、道の駅に興味を持ちインターンシップや職業体験に来てくれるようになりました。

また、地域レベルから町を盛り上げるため、地域づくりの団体として設立された北東部コミュニティ「睦」に参加しています。この団体は町の職員と地域住民が協働でまちづくりに取り組む事業を通じて組織されたもので、昨年、長く途絶えていた盆踊りを復



おたに
大谷ルミさん (西)
小国町社会福祉協議会

地域の若い人たちが盆踊りや
ニティ「睦」による活動で、
北東部地区では、北東部コミュ

の交流も少なくなっています。
二人暮らしが多くなり、地域
の交流も少なくなっています。
高齢者が安心して住めるよう
な町になればいいと考えてい
ます。小国町は三世代同居率
が高いのですが、昔よりも高
齢者のひとり暮らしや夫婦の

高齢者が安心して
暮らせる町へ

活させました。盆踊りには町全
体から多くのかたが参加して
くれ、少子高齢化や人口減少が
進む中で明るい兆しを感じら
れました。これからも道の駅
や「睦」の活動を通して小国
町を盛り上げていきたいです。

参加者の意見交換終了後、
知事や町長、参加者が感想を
語るフリートークが設けられ
ました。そこでは「SNS以
外に地域の魅力を伝える方法
があったら教えてほしい」と
いう質問に、「町で頑張っ
ている若い人がたくさんいるの

意見発表を終えて

火災予防の夜回りを始めまし
た。このような若い人たちの
声を聴いてくれる機会があれ
ば、よりよい将来に結びつく
のではないかと思います。
また、ひとり暮らしの高齢
者世帯のかたにお話を聞くと、
一番大変だという声があり
ます。自分自身で買い物に行
く手段を持たず、バスやタク
シーを利用できないというか
たもいます。そのため、安否
確認も含めた配食サービスの
ようなものを実施できたら
いいと考えています。

で、そういった人に実際に
会って、インタビューしてみ
てはどうか」と参加者から回
答があったり、「高齢者世帯
にお弁当を届けるボランティア
を高校生等の若い人に手
伝ってもらいたい」という意
見に「ボランティアだと持続
させることは難しいと思う。
例えばアルバイトであれば
やってみたい生徒がいると思
うので、一度、相談してみ
てほしい」といったアドバイス
があるなど、新しい活動や繋
がりが生まれる可能性を秘め
た意見交換が行われました。
参加者の意見発表を受け、
吉村知事から「皆さんのお話
から小国愛を感じることか
で、嬉しく思います。これか
ら互いに支え合って幸せに
生活していただき、また、町
民や移住者、高校生など様々
なかたの力を繋ぎ、小国町や
山形県を盛り上げていただ
きたいです」とコメントをい
たできました。



▲ミーティングの様子

また、町長からは「それぞ
れ異なる形で町のため頑張っ
てくれている皆さんがいるの
で、これからの小国町には多
くの可能性があると思いま
す。町民の皆さんと行政が一
緒に頑張ることによって良い
結果が生まれてきます。これ
からもぜひ一緒にまちづくり
をしていきましょう」とメッ
セージが送られました。
町では、これからも町民の
皆さんとともに「自然を愉し
みみんながわくわくする白
い森の国おぐに」を実現する
ため、協働のまちづくりを進
めてまいります。